

南木曾町文化財台帳

番 号	5 9	区 分	町指定文化財
種 別	有形文化財	所 有 者	南木曾町
名 称	太田垣外遺跡琥珀大珠（こはくおおだま）		
指定年月日	平成16年7月7日		
所 在 地	南木曾町吾妻（南木曾町博物館）		

概 要

太田垣外遺跡は、縄文時代中～後期、平安時代の遺跡である。農業基盤整備事業にともなって平成6年に大規模な調査が行われ、竪穴住居址21軒の遺構と、多くの遺物が出土している。その中でも注目された遺物が琥珀玉であった。

琥珀は松ヤニなどの樹脂が化石となったもので、黄色、赤色の透明、半透明の石で、中国では虎の魂が石に変わったものと信じられたことから琥珀と呼ばれた。その美しさから古今東西を問わず大切にされる宝石のひとつである。

国内では十カ所ほどの遺跡で琥珀の大珠が見つっていますが、太田垣外遺跡の大珠は六番目に大いとされる。琥珀が見ついているのは、北海道、東北、関東、中部地方で、西日本では見つからない。この琥珀がどこで採れたかはっきり分からないが、諏訪地方で多く出土していることから諏訪からきたという説や関東から黒曜石と共に来たという説が有力である。

太田垣外遺跡の琥珀大珠は特別な祭祀者の存在を示し、当遺跡が木曾谷南部の拠点集落であったことの証左となっている。